

第三回 城原川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会 《議 事 要 旨》

日時：令和8年2月24日（火） 16：00～17：30

場所：佐賀河川事務所 1階会議室

委員： ウォンターストン・カレン 佐賀大学 理工学部 准教授

○押川 英夫 佐賀大学 理工学部 教授

神代 智子 佐賀植物友の会

田島 正敏 佐賀自然史研究会

鶴田 靖雄 佐賀自然史研究会

徳田 誠 佐賀大学 農学部 教授

中原 正登 佐賀昆虫同好会 幹事

山崎 章弘 日本野鳥の会佐賀県支部

○：委員長

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 運営要領について

4. 事業進捗について

5. 前回委員会における指摘内容と対応方針案

6. 今年度の環境調査・検討の実施内容の報告

7. 今後の予定について

議事要旨：

次第4. 事業進捗について

- 委員によってダムの完成・建設中の貯水地の状況等のイメージが異なるため、今後の環境への対応の考え方の参考とできるよう、イメージ図の作成・委員会等での情報共有を検討すること。

次第5. 前回委員会における指摘内容と対応方針案

- 他ダムの事例も踏まえ、イノシシへの対策は有効な対策が難しいことを確認した。その他の獣害対策や外来種の駆除状況についても情報収集を継続して行うこと。
- 流水型ダムでの洪水後の維持管理（木やゴミなどの対策）について、他ダムの情報収集を行うこと。
- 試験湛水時の水位の下降速度の基準はあるが、適切な速度について、今後の全国的な動向も踏まえ、今後検討していくこと。

次第6. 今年度の環境調査・検討の実施内容の報告

- 河床材料調査について、物理特性の影響予測で用いる一般的な区切りで粒度の設定を行っているが、生物学的な尺度での粒度設定が必要と考える方が望ましい。
- シャジクモ類、ラセンソウについては、里山環境を人が維持することで生活サイクルが成り立っている場合が多い。移植の適地を探すとともに周辺にどの程度生育しているかの情報収集等を行うこと。
また、ラセンソウについては、情報不足の種であるため、重要性を含め今後の対応を検討すること。
- 城原川ダム事業についても他の事例を確認した上で、環境への影響を低減するような試験湛水等の在り方などの検討を適切に進めてもらいたい。

以 上